

堅町の 木戸口さん

堅町で衣料店を営む木戸口智一さん(同)が五月をめどに、独自の金箔プリントを施した、はし袋の製造、販売に乗り出す。新ブランド「POST(ポスト)」としての第一弾製品。知的障害者通所授産施設「やき野苑(野々市町)、金大附属特別支援学校」に一部の作業を担ってもらう。木戸口さんは「高品質を売りにする製品を目指す」と話している。

はし袋に着目したのは、自前のはしを持ち歩く「マイはし」がブームとなったため。木戸口さんが製造の最終工程となる金箔の除去作業の担い手を探していたところ、県産業創出支援機構の紹介で

障害者と連携 新ブランド

5月めどに販売へ

やき野苑とタッグを組むことが決定。同施設と交流のある金大附属袋の留め具を作ることになった。

特別支援学校高等部の生徒が、焼き物ではし袋の留め具を作ることになった。新ブランドの「POST」は、商品を作り

手から消費者に届けた。はし袋は、五月ごろから堅町の飲食店などで販売を予定する。売り上げの一部が通所者の工賃となる。木戸口

はし袋で

金箔発信



はし袋のデザインやブランドのロゴについて話し合う関係者
＝野々市町のけやき野苑

市が東山二丁目に移転整備する安江金箔工芸館の外観「カッター」が、金箔をあしらったデザインとなる。グレーを基調とした外壁に縦線状に金箔をあしらう、館の名称も金箔で刻む。市は施設自体が金箔の魅力を発信するデザインとしたい(企画調整課)としている。新年度に着工し、二〇一〇年秋の開館を予定する。

外壁にあしらい



家の蔵をイメージさせて「『博物館』としての施設の性格をデザイン的に象徴する(同)。展示スペースを設置する。

内容については、箔工芸店などの機能分担を図り、金箔に対する興味や理解を深め、まちへ誘う構成とする。

三階建てで、延べ床面積は千三百八十七平方メートル。一階に多目的展示ホールや図書コーナー、二階に展示室、収蔵庫を配し、三階には金箔箔技術振興研究所(仮称)が入る。屋外には箔工芸店紹介コーナーや屋外多目的スペースを設置する。

さんはこれまでも社会貢献の一環で、市内の授産施設でTシャツの袋詰めなどの作業を指導している。

けやき野苑も最期の低産で請け負う仕事の受注量が減っており、中山肇支援課長は「こんな時だからこそ、事業者と協力し前向きに頑張りたい」と話している。